

ふるさと探訪

第29回 三嶋神社・舟山古墳



中央の森が舟山古墳



- ▲ 三嶋神社社殿（右）と市指定文化財の石碑（左）
- ◀ 秋祭りで急峻な石段を上り下りするだんじり

小松町内の国道11号と196号交差点の南側に、樹木に覆われた三嶋神社があります。秋祭りには、12〜13台の小松地区のだんじりが集合して勇壮なかきくらべを奉納し、氏子と観衆が一体となって祭りを楽しまます。

三嶋神社は小松藩主一柳家の氏神として大切にされ、古くは井手郷の総鎮守とされてきました。現在の舟山へ移ったのは嘉永7（1854）年のことで、市指定の文化財である一柳直卿公寄進の石碑や扁額を始め、神社建築も見事です。

また、神社を含めた丘全体は県史跡「舟山古墳群」として昭和37年に文化財に指定されています。舟山はその名の通り、南北100m・東西300m

の船形をした丘陵でその西側に集中して6〜7世紀の古墳が20基程度あったようです。現在は半分程が残り、神社の深い社叢のなかで静かな時を過ごしています。

三嶋神社と舟山古墳は、古代から江戸時代の歴史を保ちながら現代の我々の生活の一部に繋がる、貴重な文化遺産といえます。

- 住所 小松町新屋敷甲2234
- 駐車場 あり（無料）

